

目 次

(各項目が該当ページへのリンクとなっています。)

病害虫防除指針

1 2. いも類の部

(1) いも類	291
(2) こんにゃく	292
(3) ばれいしょ	294
(4) かんしょ	297
(5) さといも	300
(6) やまのいも	302

野菜類－いも類－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名	
						ハダ ニ類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ
1	アカリタッチ乳剤		普	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル	-	○	-
2	ゼンターリ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	○

野菜類-いも類-こんにやく-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						葉枯病	腐敗病	乾腐病	根腐病	白絹病
1	ICボルドー412		普	銅	M1	○	-	-	-	-
2	ICボルドー48Q		普	銅	M1	○	-	-	-	-
3	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	○	-	-	-
4	Zボルドー		普	銅	M1	○	○	-	-	-
5	アグリマイシン-100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	○	-	-	-
6	アグレプト液剤		普	ストレプトマイシン	25	-	○	-	-	-
7	アタッキン水和剤		普	1.ストレプトマイシン 2.チオファネートメチル	25、1	-	○	○	-	-
8	オラクル顆粒水和剤		普	アミスルプロム	21	-	-	-	○	-
9	キノンドー水和剤40		普	有機銅	M1	○	○	-	-	-
10	クプロシールド		普	銅	M1	○	○	-	-	-
11	ジーファイン水和剤		普	1.炭酸水素ナトリウム 2.銅	NC、M1	○	-	-	-	-
12	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	-	○	-	-	-
13	トップジンM粉剤DL		普	チオファネートメチル	1	-	-	○	-	-
14	トリフミンジェット		劇	トリフルミゾール	3	-	-	○	-	-
15	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	-	○	-	-
16	トリフミン乳剤		普	トリフルミゾール	3	-	-	○	-	-
17	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	○	-	-
18	マテリーナ水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.ストレプトマイシン	31、25	-	○	-	-	-
19	ムッシュボルドーDF		普	銅	M1	-	○	-	-	-
20	モンカットファイン粉剤20DL		普	フルトラニル	7	-	-	-	-	○
21	モンガリット粒剤		普	シメコナゾール	3	-	-	-	-	○
22	ユニフォーム粒剤		普	【*1】	11、4	-	-	-	○	○
23	ヨネポン		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	○	○	-	-	-
24	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	-	-	-	○	-
25	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	○
26	硫酸銅		劇	硫酸銅	M1	○	○	-	-	-
27	硫酸銅(粉)		劇	硫酸銅	M1	○	○	-	-	-

【*1】1.アゾキストロピン 2.メタラキシル及びメタラキシルM

野菜類ーいも類ーこんにゃくー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						ア ブ ラ ム シ 類	ワ タ ア ブ ラ ム シ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
1	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	-	-
2	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	-	-
3	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-
4	ウララDF		普	フロニカミド	29	○	-	-
5	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	○	-	-
6	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	-	-
7	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	○
8	モスピラン粒剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	-	○	-

野菜類ーいも類ーこんにゃくーその他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名	
						葉 枯 病	腐 敗 病
1	ボルドー液用粉末生石灰		普	生石灰	-	○	○

野菜類-いも類-ばれいしょ-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						疫病	軟腐病	そうか病	黒あざ病	夏疫病	菌核病	粉状そうか病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
3	アグリマイシン100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	○	○	-	-	-	-
4	アタッキン水和剤		普	1.ストレプトマイシン 2.チオファネートメチル	25、1	-	-	○	○	-	-	-
5	カスミンボルドー		普	1.カスガマイシン 2.銅	24、M1	○	○	-	-	-	-	-
6	カセット水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.カスガマイシン	31、24	-	○	○	-	-	-	-
7	カッパーシン水和剤		普	1.カスガマイシン 2.銅	24、M1	○	○	-	-	-	-	-
8	グリーンダイセンM水和剤		普	マンゼブ	M3	○	-	-	-	○	-	-
9	コサイド3000		普	銅	M1	○	○	○	-	-	-	-
10	ザンプロDMフロアブル		普	1.アマトクトラジン 2.ジメトモルフ	45、40	○	-	-	-	-	-	-
11	ジーファイン水和剤		普	1.炭酸水素ナトリウム 2.銅	NC、M1	○	-	-	-	-	-	-
12	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	-	-	-	○	-	-
13	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	-	○	-	-	-	-	-
14	ジーベック エンテクタ SE		普	1.オキサチアピロリン 2.アミスルブロム	49、21	○	-	-	-	-	-	-
15	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	-	-	○	-	-
16	ドイツボルドーA		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
17	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	-	-	-	○	-
18	ナレート水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.有機銅	31、M1	-	○	-	-	-	-	-
19	ネビジン粉剤		普	フルスルファミド	36	-	-	○	-	-	-	○
20	フォリオゴールド		普	1. TPN 2. メタラキシル及びメタラキシルM	M5、4	○	-	-	-	-	-	-
21	プロポーズ顆粒水和剤		普	1. TPN 2. ペンチアバリカルブイソプロピル	M5、40	○	-	-	-	○	-	-
22	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	-	○	-	○	○	○
23	フロンサイド粉剤		普	フルアジナム	29	-	-	○	-	-	-	○
24	ベンコゼブ水和剤		普	マンゼブ	M3	○	-	-	-	○	-	-
25	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	-	○	-	-	-
26	ホライズンドライフロアブル		普	1. シモキサニル 2. ファモキサドン	27、11	○	-	-	-	○	-	-
27	モンカットフロアブル40		普	フルトラニル	7	-	-	-	○	-	-	-
28	ライメイフロアブル		普	アミスルブロム	21	○	-	-	-	-	-	-
29	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	○	-	-	-	-	-	-
30	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	○	-	-	-
31	リドミルゴールドMZ		普	1. マンゼブ 2. メタラキシル及びメタラキシルM	M3、4	○	-	-	-	-	-	-
32	レーバスフロアブル		普	マンジプロパミド	40	○	-	-	-	-	-	-
33	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	-	○	○	○	-

* Zボルドーは野菜類(キャベツを除く)の軟腐病に登録あり

野菜類-いも類-ばれいしょ-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						テントウムシダマシ類	アブラムシ類	ワタアブラムシ	ニジュウヤホシテントウ	ハスモンヨトウ	ヨトウムシ	ネキリムシ類	ネグサレセンチュウ	ネコブセンチュウ	ジャガイモシストセンチュウ	ジャガイモガ	
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アドマイヤー水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
9	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ジェイエース粒剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
15	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	チェス顆粒水和剤		普	ピメロジン	9B	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	トレボンEW	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-
21	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-
22	ビーラム粒剤		普	フルオピラム	I-F:7	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-
23	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	ベネビアOD	抑制	普	シアントラニリブロール	28	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
25	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
26	モベントフロアブル		普	スピロテラマト	23	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

12-(3) ばれいしょ（野菜類、いも類に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
黒あざ病	植付前 1. 種いもは健全なものを用いる。 2. 催芽・切断前に種いも消毒を行う。 3. 菌核（黒色あざ状）の付着した種いもを植えない。 4. 連作を避け、過度の早植をしない。	・寒冷地のpHの低いほ場で発生が多い。
そうか病	植付前 1. 種いもは健全なものを用い、種いも消毒を行う。 2. pHの高いほ場での作付けを避ける。 3. 発病ほ場は、5年以上の輪作を行う。	・軽石、赤土で発病しやすい傾向がある。 ・塊茎肥大期の乾燥は、発病を助長する。 ・罹病いもの放置やすき込みをしない。
疫 病	植付前 1. 種いもは健全なものを用いる。 2. 連作を避ける。 3. 高畝にして排水を良好にする。 4. 窒素過多は発病を助長する。	・開花期以降に発生しやすく、気温20℃前後で降雨が続くと多発する。
夏疫病	植付前 連作を避ける。 生育期 1. 葉裏や地際まで適用薬剤がかかるよう散布する。 2. 肥切れしないよう施肥する。	・発病の適温は26℃前後と疫病よりも高く、降雨が続くと多発する。
軟腐病	生育期 1. 過湿、窒素過多にならないよう注意する。 2. 葉裏や地際まで適用薬剤がかかるよう散布する。 3. 早期の培土を避け、2回に分けて培土を行う。 収穫期 土壌が乾いている時に収穫し、十分風乾後調製する。	・開花期以降の高温多湿条件で多発するが、乾燥した天候が続くと発生が少ない。 ・罹病いもが混入すると、貯蔵中に被害が拡がるので注意する。
モザイク病	植付前 種いもは健全なものを用いる。 生育期 発病株を抜き取り、アブラムシ類を防除する。	
ジャガイモガ	生育期 1. 発生初期から適用薬剤を散布する。 2. 土寄せを十分に行い、いもの露出を防ぐ。 収穫期 加害されたいもを除去する。	・掘り取りは日中に行い、成虫が活動を始める夕方までに室内に収納する。 ・収穫時に被害塊茎や産卵された塊茎を持ち込むと、貯蔵庫内で増えて被害が多くなる。 ・塊茎へ発生すると表面に虫糞が生じる。
テントウムシ ダマシ	生育期 発生初期から適用薬剤を散布する。	・第3齢以降は食葉量が多い。 ・発芽直後の加害は生育が遅れ、減収する。 ・イモ肥大期の加害では、イモ数は減少しないが、大きさや重量が著しく減少する。

野菜類-いも類-かんしょ-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名			
						黒斑病	つる割病	基腐病	斑点病
1	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	-	-	○	-
2	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	○	-
3	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	○	○	-
4	フロンスайдSC		普	フルアジナム	29	-	-	○	-
5	フロンスайд粉剤		普	フルアジナム	29	-	-	○	-
6	ベンレート水和剤		普	ベンミル	1	○	○	○	○

野菜類-いも類-かんしょ-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名											
						アブラムシ類	コガネムシ類幼虫	ハスモンヨトウ	イモコガ	コガネムシ類	シロイチモジヨトウ	ナカジロシタバ	ハダニ類	ハリガネムシ類	ネコブセンチュウ	コナジラミ類	
1	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アタプロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオン乳剤	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
5	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アフファム乳剤	抑制	普	エマメクテン安息香酸塩	6	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
7	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
8	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○
9	コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-
10	サンマイトフロアブル		劇	ピリダベン	21A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○
11	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
12	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
14	トクテオン細粒剤F		普	プロチオホス	1B	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
15	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ及びインドキサカルブMP	22A	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
16	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
17	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
18	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
19	プリンスバイト		普	フィプロニル	2B	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
20	ブレオフロアブル		普	ピリダリル	UN	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
21	ブレバソフフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
22	マッチ乳剤	抑制	普	ルフエヌロン	15	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-

12-(4) かんしょ（野菜類、いも類に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
立枯病	植付前 1. 連作を避ける。 2. 土壌 pH が高いと発病を助長するので、pH を 6.0 (H ₂ O) 以下に抑えるようにする。 3. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・放線菌による土壌病害である。 ・地温が高く、乾燥した条件下で発生が多い。 ・「ベニアズマ」は立枯病にやや強い。
黒斑病 つる割病	植付時 1. 種いもは病斑のない無病なものを利用する。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 3. 適用薬剤で苗消毒を行う。 収穫時 健全株と発病株の掘取りは別に行い、罹病いもに触れないようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモを食害する害虫やモグラの食痕などの傷口からも発病する。
紫紋羽病	植付前 1. 桑園跡地等は発生しやすいため、植付けを避ける。 2. 発病ほ場はイネ科作物を 5 年間程度栽培する。 3. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・酸性、リン酸欠乏土壌に発生が多い。 ・未分解有機物の多い畑で発生しやすい。
基腐病	植付前 1. 種いもは必ず未発生ほ場から採取する。 2. 栽培履歴が確かな種苗を確保する。 3. 購入苗は、苗消毒がなされているか確認し、消毒されていない場合は登録がある薬剤で苗消毒する。 4. 採苗する場合は、腐敗等のない健全な種いもを使用し、本病が発生した苗床では採苗しない。苗の採取は株の地際部から 5 cm 以上切り上げて行い、採苗当日に苗消毒を行う。採苗時のハサミはこまめに消毒する。 5. 連作を避ける。 6. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 7. 土壌に適用薬剤を処理する。 8. ほ場の排水対策を徹底する。 生育期 1. 茎葉が地表面を覆う前に観察する。 2. 発病株（茎や塊根）は速やかに抜き取り、ほ場内や周辺に残さないよう適切に処分する。 3. 茎葉が畝間を覆ってから収穫期までは、降雨前から適用薬剤によるローテーション散布を行う。また、薬液は株元や茎にしっかり付着するように散布する。 収穫時 1. 発生ほ場では早期収穫することで被害を軽減できる。ただし、収穫した塊根は貯蔵中や出荷後輸送中に発病する可能性がある。 2. ほ場から残渣を速やかに除去し、耕耘などを行って、除去しきれなかった残渣の分解を促進する。 3. 発病したほ場から種いも、苗を採取しない。 4. 種いもは貯蔵前に変色の有無を確認し、疑わしいいもは貯蔵しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・本病は、ヒルガオ科（サツマイモなど）にのみ感染する。 ・苗消毒の際、畝に差し込む部分と地際部の茎表面がしっかり薬液に浸るようにする。また、消毒液は必ず使用する当日に調製したものをを用いる。 ・排水が不十分な場所で発病しやすいため、ほ場内の排水対策を行う。 ・畝間に水がたまるような降雨後や台風通過後は蔓延しやすい。

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
ネコブセンチュウ	植付前 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) (ネコブセンチュウの防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネコブセンチュウに寄生されると、細根は丸く肥大して根こぶとなる。塊根には、黒色小斑点(ひげ根基部)、黒色ひび割れ、裂開、窪み、くびれ等の症状が現れる。 ・ネコブセンチュウの寄生により、つる割病等の土壌病害の発病が助長される。
コガネムシ類 幼虫	植付前又は植付時 適用薬剤を使用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・火山灰土などの軽い土壌で発生が多い。 ・堆肥など有機物を多用すると発生が多い。
ハリガネムシ類 (マルクビクシコメツキ)	植付前又は植付時 1. 発生が多い圃場では土壌消毒や適用薬剤による防除を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 2. 畦畔部の除草を行う。 3. 畦畔部とほ場の上に 30~40cm の深い溝を掘り巡らせ、ほ場への侵入を防ぐ。	<ul style="list-style-type: none"> ・水はけのよい火山灰土や砂壤土で発生が多い。 ・成虫はイネ科植物の花粉を餌としているので、周辺にムギ類や牧草等のイネ科植物が多いほ場で発生が多く、毎年同じ場所に発生する傾向がある。

野菜類ーいも類ーさといもー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						アブラムシ類	ハスモンヨトウ	カンザワハダニ	ネグサレセンチュウ
1	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	-	-	-
2	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	-	○	-	-
3	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-
4	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-
5	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	○	-	-
6	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	○	○	-
7	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	○
8	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	-
9	プレオフロアブル		普	ピリダリル	UN	-	○	-	-
10	プレバソンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	-	○	-	-
11	ブロフレアSC	抑制	普	ブロフラニリド	30	-	○	-	-
12	ヨーバルフロアブル	抑制	普	テトラニリプロール	28	-	○	-	-

12-(5) さといも (野菜類に登録のある農薬も使用可能※)

※さといもは農薬登録上、塊茎を収穫するものでは「いも類」に、葉柄を収穫するものでは「茎野菜類」に分類される。また、適用農作物名がそれぞれ「さといも」、「さといも(葉柄)」となるため、使用できる農薬が異なるので注意する。

病害虫名	防除方法	参考事項
汚斑病	生育期 1. 被害葉は次作の伝染源となるので、ほ場外へ持ち出すなどして処分する。 2. 生育中の過繁茂や、後半の肥料切れによって症状が激しくなるので、適切な肥培管理を行う。	・夏から秋にかけての降雨により、分生子が生じて伝染し、多発することがある。
乾腐病	植付前 1. 無病の種いも(切り口に赤いスジのないもの)を使用する。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 3. 連作により被害が拡大しやすいので、土壌消毒を行うか、他作物と輪作する。	

表 農林水産省が示した農薬登録における適用作物名のうち、「さといも」(いも類)と「さといも(葉柄)」(野菜類)に使用できる農薬との関係

大作物群	適用農作物					
	いも類			茎野菜類		
中作物群						
小作物群	-			ずいき類		
作物名	さといも			さといも(葉柄)		
作物名に含まれる別名、地方名、品種名等の例	えびいも、たけのこいも、やつがしら、セレバス			ずいき、だついも		
備考	塊茎を収穫するもの			葉柄を収穫するもの		
さといも(えびいも、たけのこいも、やつがしら)への使用	○	○	○	×	×	×
さといも(葉柄)(ずいき、だついも)への使用	○	×	×	○	○	○

※ 「さといも」のみ記載の農薬は、葉柄を収穫する「さといも(葉柄)」に使用できない。
 ※ 本県防除指針に掲載されている「さといも」の登録農薬のうち、アドマイヤー1粒剤、アドマイヤー顆粒水和剤、コテツフロアブルについては「さといも」と「さといも(葉柄)」両方に使用できる。

野菜類—いも類—やまのいも—殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						炭疽病	葉渋病	つる枯病	根腐病	青かび病	褐色腐敗病
1	Zボルドー		普	銅	M1	○	○	-	-	-	-
2	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	-	-	-	-
3	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	○	-	-	-	-
4	カナメフロアブル		普	インピルフルキサム	7	-	-	-	-	○	-
5	キノドー水和剤40		普	有機銅	M1	-	○	-	-	-	-
6	コサイド3000		普	銅	M1	-	○	-	-	-	-
7	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	-	-	-	-
8	ストロビーフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	○	-	-	-	-
9	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	○	○	-	-	-
10	ティービック水和剤		普	1. チウラム 2. ペンシクロン	M3、20	-	-	-	○	-	-
11	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	○	-	-	-	-
12	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	○	-	-	-	○
13	ベルクートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	○	○	-	-	○	-
14	ベルクート水和剤		普	イミノクタジン	M7	-	○	-	-	○	-
15	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	○	-	-	-	-
16	ベンレートT水和剤20		普	1. チウラム 2. ベノミル	M3、1	-	-	-	○	○	○
17	メジャーフロアブル		普	ピコキシストロビン	11	○	○	-	-	-	-

野菜類-いも類-やまのいも-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						ナガイモコガ	アザミウマ類	アブラムシ類	ヤマノイモコガ	コガネムシ類	ハダニ類	カンザワハダニ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	ネグサレセンチュウ	ネコブセンチュウ	
1	アタブロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
4	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
6	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
7	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
8	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
9	ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
10	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
12	デルフィン顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-
13	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフル	4C	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-
15	トレボン粉剤DL	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
16	ピーラム粒剤		普	フルオピラム	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
17	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
18	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
19	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
20	プレバソンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニプロール	28	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
21	ベネビアOD	抑制	普	シアントラニプロール	28	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-
22	マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
23	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

12-(6) やまのいも（野菜類、いも類に登録のある農薬も使用可能）

病虫害名	防除方法	参考事項
褐色腐敗病 根腐病	植付前 1. 無病の健全な種いもを用いる。 2. 適用薬剤で種いも消毒を行う。 3. 発病ほ場は土壌消毒を行う。 （土壌くん蒸剤の項参照） 4. 排水不良地に多発しやすいので、滞水するほ場は排水対策を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・褐色腐敗病：茎葉は収穫期を待たずに枯れ上がり、いもは奇形症状、黒褐色症状となる。 ・根腐病：地際部の病斑が進み、つる枯症状となり、いもは分岐して奇形となる。 ・土壌消毒をする場合は、処理後直ちにポリフィルム等で完全に覆う。
青かび病	植付前 1. 無病の健全な種いもを用いる。 2. 適用薬剤で種いも消毒を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・青かび病による腐敗は、25℃で最も速く、5℃以下でもわずかながら進行する。土壌中に病原菌が生存しており、いもの傷口や切断面から侵入すると考えられる。生育中に発生することは少なく、収穫後から貯蔵中に発病することが多い。
葉渋病 炭疽病	植付前 連作を避ける。 生育期 1. 発生初期の防除を徹底し、適用薬剤のローテーション散布を行う。 2. 被害茎葉は処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・糸状菌による病害である。 ・被害植物上の分生子層や菌糸が翌年の発生源となる。 ・梅雨期及び秋期の降雨が多い時に発病する。特に、秋期のいも肥大期に発病が多い。
ネコブセンチュウ	植付前 1. 健全な種いもを用いる。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） （ネコブセンチュウの防除対策の項参照） 3. 対抗植物を輪作作物として導入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いもに寄生して伝搬することが多いので、種いもは健全なものを用いる。